

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇福井市クリーンセンター研修室における窓の断熱改修の検証

■ [随想](#)

◇マリ共和国旅行記（3）－通貨－

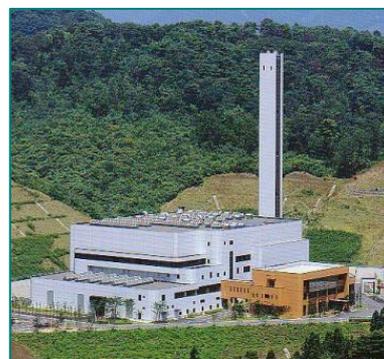
一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇福井市クリーンセンター研修室における窓の断熱改修の検証

福井市の関連施設である、[福井市クリーンセンター](#)で二重窓の断熱改修検証試験を行いました。この試験は、プラスチックサッシ工業会に所属するフクビ化学工業(株)の関連会社リフォジュール(株)が福井市役所の玄関エントランスホールに施工したことから([PVCニュース 77号で記載](#))、プラスチックサッシ工業会の「北陸地方に樹脂サッシを普及させる為に検証試験をして欲しい」との要請に答えたものであり、福井市・福井大学（吉田研究室）と場所選定など打合せを重ね実現した検証試験です。



福井市クリーンセンター

今回の研究の目的は、冬期の省エネルギー効果は無論のことコールドドラフト（窓付近の室内空気が冷やされてできる冷たい下降気流）などを解明し、住環境の快適性やヒートショックなどの人体の健康に少しでも貢献できればという部分にも狙いがあります。

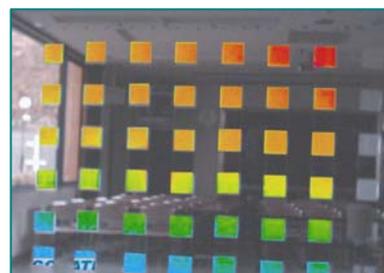
検証期間は、平成23年12月に樹脂製二重窓を取り付ける前の測定を行い同月に樹脂製二重窓（LOW-E硝子）を取付け、正月から1月中旬まで測定し、取付け前後の室内温熱環境の変化を見ました。

対象施設は、クリーンセンターの1階の研修室（100名収容）で検証試験後も一般の人達に見てもらおうことのできる部屋としました。



研修室

実証調査の内容は、改修前後の室内空気温度・壁表面温度などの計測に基づく室内温熱環境改善効果の測定やエアコンの供給熱量に伴う電力消費量の計測結果に基づく省エネルギー効果は、もちろんのこと、今回は、コールドドラフトを目で見るために東京大学坂本教授にアドバイスをいただき天井より下げた25cm角の障子紙を等間隔で気流が流れるようにしてサーモカメラで撮影することを行ないました。また、要所にグローブ温度計を配し室温と輻射熱による測定を行い



サーモカメラ撮影写真

快適性についても検証しました。添付の内窓取付前のサーモカメラ撮影写真から窓付近や床の温度が低いことが視覚的によくわかります。試験結果はまだ出ていませんが、どのように改善されるか楽しみです。

試験結果は、測定を担当していただいた学生の卒業論文としてまとめ、さらに論文にして9月に行なわれる日本建築学会にて発表します。また、検証の結果は3月末頃にHPやメルマガでご紹介しようと考えています。

2月7日に福井市クリーンセンターに於いて関係者が出席し寄贈式が行われました。福井市によるメディア等の取材対応も行われたことから、福井を含めた北陸地方で、再開された住宅エコポイント制度を利用した内窓の設置が進むことを期待しています。

最後に、福井大学、福井市環境課、福井市クリーンセンター、プラスチックサッシ工業会、フクビ化学工業(株)の関係者のご協力に感謝いたします。また、今回の検証を熱心に進められたプラスチックサッシ工業会の故齋藤前事務局長のご冥福をお祈りいたします。(了)

■ 随想

◇マリ共和国旅行記（3）－通貨－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

マリ共和国の通貨単位は“フラン”。ところがこの通貨、“ユーロ”のように西アフリカでは他の国でも通用します。実はこのフラン、正式には“CFAフラン”と呼ばれる通貨単位で西アフリカ諸国中央銀行が発行している通貨なのです。

“CFAフラン”、現在はマリ共和国、セネガル、ギニアビサウ、コートジボワール、トーゴ、ベナン、ブルキナファソ、ニジェールの8カ国で使用されています。広域通貨である“CFAフラン”の歴史は“ユーロ”などより古く1958年、フランス共同体アフリカフラン(franc de la Communauté Française d'Afrique)設立まで遡ることができます。

当初は旧フランス植民地であった国が中心でしたが、現在では旧ポルトガル領であったギニアビサウも加わっています。また、CFAの正式名称もアフリカ金融共同体(Communauté financière africaine)に変更になっています。

実は“CFAフラン”にはもう一つあり、こちらは中部アフリカ金融協力体(Cooperation financière en Afrique Centrale)が管理し、中部アフリカ諸国銀行が発行している通貨です。

こちらの“CFAフラン”はチャド、中央アフリカ共和国、カメルーン、赤道ギニア、ガボン、コンゴ共和国の6カ国で使用されています。

何れの“CFAフラン”も為替レートは一緒ですが、相互に流通させることはできません。しかし、それぞれの国は陸続きであり、人や物流も絶えず行き交っています。このため、間違って(?)別の“CFAフラン”が流通していることがあります。当然、デザインも違うので紙幣だと分かりやすいのですが、コインの場合だと数字だけ見て受け取ってしまい、デザインまで見ることは少ないため間違っ受け取ってしまうことがあります。

支払いの際、相手も気が付かずに受け取ってくれればいいのですが、気が付かれると受

け取りを拒否されます。コインですから日本と同様、銀行でも両替はしてくれません。うっかり受け取った人が泣きを見るだけです。

幸い、私はまだ受け取ったことはありませんが、闇両替屋ではうっかりマリ共和国内に持ち込まれたコインを安く買い叩き、外国人相手の両替の時に素知らぬ顔をして、それも正規の為替レートよりかなり悪いレートで渡すところがあるそうです（当然、マリ共和国内では使用できません）。

隣接する国々で、名称も同じ、歴史も同じ、為替レートも同じなら、一緒にすればいいのと思うのは、外国人である私だけなのでしょうか？

物価は、アフリカの中では平均的ではないでしょうか。ただ、工業が発達していないので、食料品と衣類を除き、ほとんどが輸入品なので感覚的には高く感じます。

輸入品の大半は、中国から。

マリ共和国はちょうどモータリゼーションが始まったところ。とは言っても車ではなく、バイク（日本で言う原付バイク）が大流行。男性ばかりでなく、女性ライダーも颯爽と走っています。このため、街中はバイク屋さんだらけ。そこに並んでいるのは。。。あれ？日本製は見当たらない。一見するとホンダやヤマハ、スズキのバイクなんだけど。。。よく見ると HONDA、YANAMA、SUSUKI のバイク。一応、ちゃんと走っています (-_-;

中国パワーはバイクだけではありません衣料品から日用品まで、ありとあらゆるマーケットに進出しています。

びっくりするのは中国人開業医の多さ。マリ共和国は数年前に医学部が一つできたばかりで、国内で養成された医師は残念ながらまだいません。このため、医師は海外へ留学して医師免許を取った人か外国人医師。

マリ人やヨーロッパからの医師が開業するクリニックは文字が主体の普通の看板ですが、中国人医師が開業するクリニックはなぜか赤十字のマークを付けています。イスラム教国では十字はキリスト教のシンボルということで使わないのが普通です。赤十字社でもイスラム教国では赤い月のマークを使っています。

あんなマークを使って、患者さんは来るのでしょうか？それとも、それだけ多くの中国系の人が、既にマリ共和国で生活をしているということなのでしょうか？

残念ながら在マリ共和国日本大使館の建物を見てはいないのですが、在マリ共和国中華人民共和国大使館の立派なこと。幾つか見たヨーロッパ各国の大使館と比べても数倍の規模があり、国としてマリ共和国との関係にいかに力を入れているかが分かります。

中国から見ると、マリ共和国は大きなマーケットなのでしょうか？

この秘密は最終回で解明されます (^O^)



日本も以前からマリ共和国に援助を行ってはいらるようです

(つづく)

前回：[「マリ共和国旅行記」\(2\) - 蚊帳の中 -](#)

■ 編集後記

この冬は、20年に一度の大寒波だとか？東京も、いつもになく「今年の冬は寒い」と感じます。どれほど気温が低いのかネットで東京の1月の気温を調べて見ました。ここ3~4年の最高/最低気温の平均は、10/3.7（2009年）、11/3.1（2010年）、9.1/1.6（2011年）、8.2/2.0（2012年）と、確かに今年は低いようですが、思ったより差がないのに驚きました。平均気温で見ても、東京の1月の平年の平均気温が6.1度であるのに対し、この1月は4.8度だったとのこと。この1、2度の差で暖かい、寒いを感じるのだから、きっとトピックスで紹介のあった福井市クリーンセンターに設置した樹脂製内窓は、ずっと暖かさを感じさせてくれるはずです。（HI）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp